

ウサギの飼い方

従来、うさぎは弱い動物だと言われてきました。確かに犬や猫に比べると弱い部分もありますが、上手に飼えば元気で長生きをすることができます。うさぎを飼う上で覚えておいてもらいたいことが幾つかあります。それをこれからお話ししましょう。



◇ 生理

- うさぎは草食動物です。ですから犬猫に比べて非常に複雑な消化システムを持っています。特に盲腸は非常に大きく、お腹の中のほとんどを占めています。盲腸の中では食べた植物を栄養に換える細菌がいて、うさぎに栄養を与えます。
- 明け方に、自分の肛門から便を食べることがありますが、これは盲腸便（栄養便）といって、うさぎの重要な栄養源になります。時折、正常便に混ざってケージに落ちていることがあります。
- おなかを壊すと死んでしまうことがありますから、便の状態は常に気をつけてください。
- うさぎは吐くことのできない動物です。部屋に放しているとき異物などを飲み込まないように注意します。胃に詰まってしまうと大変です。また電気のコードで感電してしまうこともあります。
- 他の動物に比べて肺が小さいので、胸を圧迫するような抱き方をすると嫌がって暴れるので怪我をしたり、窒息死をしてしまうことがあります。
- うさぎのおしっこの色はいろいろあります。黄色、白、オレンジ色などで濁っていることもあります。これは野菜の中のカロチンやカルシウムの色ですから心配は要りません。

◇ 食事

食事は干し草と野菜を中心に与えるようにします。つついペレット（固形飼料）を中心に与えてしまいがちですが、これは消化器疾患のもっとも大きな原因となります。うさぎの胃腸機能は粗繊維分が豊富にないと正常に働きません。ペレット中心の食事を与えていると胃の動きも悪くなり、ひいては毛球症や胃鬱滞の原因となってしまいます。

- あげてほしいもの
 - A) 干し草
 - B) 野菜類
 - C) ペレット（少量）
 - D) 水
- あげてはいけないもの
 - A) お菓子類
 - B) 人間の食べもの
 - C) ねぎ類、アボガド
 - D) カボチャ、ゴボウ
 - E) 芋類、穀類、ナッツ類、
 - F) うさぎのおやつ

ペレット（固形飼料）について

うさぎがペットとして飼育されるようになったのは最近のことです。それまでは食肉用や毛皮の生産に飼育されていました。生産性を上げるために手間がかからず、早く成長するような食事が必要となり、ペレットが登場したのです。そのため、内容的にはアルファルファなどの高タンパク、高カルシウムの植物を用いられたものがほとんどです。成長期や妊娠期の食事には適しますが、大人になってもそればかり食べていると肥満や、腎臓病のもとになってしまいます。

ペレットは不必要なものではありませんが、それだけ与えるのは考えものです。

果物類はおやつ程度に少量なら与えてもかまいません。

うさぎはもともと夜行性なので日が暮れてから食事をはじめの子もいます。

野草は地域にも依りますが、寄生虫の感染源になったり殺虫剤、除草剤で中毒を起こす可能性もあるので注意が必要です。

観葉植物は毒性を示すものが多いため、ウサギがかじらないところに置いて下さい。

◇ ケージ

- ケージはうさぎ用のものが販売されています。床はスノコ（木製）や金網のものがあり、スノコはオシッコなどが拭き取りにくく不衛生になりやすく、金網は爪などが伸びすぎていると網に引っかかり怪我の原因となります。また床が硬すぎると足の裏に炎症が起こったりします。今の段階で優れたケージは無いように思えます。
- 土の上で飼うときは、地下 1.5m の深さまで柵を作らないと逃走してしまうことがあります。もともと土に穴を掘って生活している動物ですから土の上で飼うのは大変です。

◇ 病気

うさぎの病気は人間と同じようにいろいろあります。その中でもよく見られるものを挙げてみました。これ以外の病気もたくさんありますので、いつもと様子が違うと思ったら、獣医師に相談するようにしてください。

- 消化器疾患
うさぎの病気の中でも消化器疾患が一番多い病気です。糞が小さかったり、ぶどうの房状になっているものが、我々の下痢に相当します。糞が全くでない、下痢便を続けてする、白い泡状のものが落ちているという症状が出ているときは、すぐに病院に連れていってください。状態のひどいときは食欲も落ちてきます。
- 不正咬合
歯の噛みあわせがうまくいかずに、歯が伸びすぎてしまう状態です。食事をうまく採れないばかりでなく、歯槽膿漏から顎の膿瘍になってしまうことがあります。不正咬合がある場合には定期的に歯を切ってあげる必要があります。
- 膿瘍
膿瘍は顎の下にできるものも多いのですが、噛まれたり異物が刺さったりしてもできることがあります。治療は手術をしなければいけないこともあります。
- スナッフル
くしゃみ、鼻水が症状です。細菌感染によって起こりますが、子うさぎでは死に至る子もあります。慢性に経過すると治りにくい病気です。
- 結膜炎
うさぎは眼が大きく、外に張り出しているため目を傷つけることが他の動物に比べても多いように思います。不衛生な環境にいたり、床敷きにチップなどを用いていると結膜炎の原因になったりします。このようなチップは、目だけでなく呼吸器や肝臓に障害を起こす可能性があるためできるだけ使用しない方が良いでしょう。

日常にすること

うさぎを健康に保ち長生きさせるためには、適切な環境で飼育し、異常を早期に発見することです。そのために、次のことは習慣として身につけるようにすると良いでしょう。一日たった数分でもかまわないのです。うさぎとふれ合う時間を作ってください。

毎日やること

うさぎと良く触れ合うようにします。そうすれば、正常時のうさぎの身体をよく知ることができます。トイレをチェックしましょう。硬くて丸い糞に大きさや形のの違いがないか調べてください。これは腸に問題があるかの指標になります。

大量に毛が落ちていないか。(毛球症に気をつけなければいけません。)

尿の状態(濃い白色や灰色の尿をみつけたら、1~2日前に大量のカルシウムを含む食事を摂取したかもしれません。)

毎日数分でもクシやブラシをかけてあげて余計な被毛を取り除きます。

毎週やること

徹底的にうさぎの生活エリアの清掃をする。

目や鼻から分泌物がないことを確認する。

耳の奥まできれいかどうかみる。

毎月やること

爪切り

足の裏が腫れたり、化膿していないかをみる。

歯のかみ合わせがうまくいっているかみる。

下顎のチェック(何かコブのような物はありませんか)

ノミのチェック

フケの有無(ダニの寄生かも)

◇ その他

- うさぎの寿命は当初5~6年と言われていましたが、最近では10年くらいまで寿命が延びてきています。これは医療の発達もありますが、ペットとしてのうさぎに対する知識が入手しやすくなってきたからではないでしょうか。我々がもっとうさぎの習性や体の違いを理解してあげたら、もっと長生きしてくれるかもしれません。



すすきの動物病院

〒225-0021 神奈川県横浜市青葉区すすき野 3-7-3

Tel (045) 904-2066

ホームページにもうさぎの情報が 있습니다。

URL <http://www.susukino-vet.com>